

二 ドイツ民族強化策と強制労働

それでは、ポーランドにおけるドイツ民族強化策なるものが実際にどのように進行したか、その大まかな推移をみておこう。表2-1は全占領期間に関する統計であり、占領下のポーランド人が、一九三九年から四四年の占領全期間にわたって、各段階の戦況に関連して併合地から総督府へ、総督府からソ連領へ、あるいは併合地内部、総督府内部でどのように強制移住させられたかを一目瞭然にしている。一九四〇年六月、西部戦線でフランスに勝利してから、一年後の独ソ戦開始にいたる期間に、ライヒに併合されたポーランドから総督府への強制移住は頂点に達した。独ソ戦の開始までに、すなわち一九四一年春に併合地域から総督府への移送は一段落したのであった(表2-1参照)。

もちろん、このような強制移住行動はなんの摩擦もなく進行したのではなく、住民の不満や抵抗などを引き起こし、総督府のフランク指揮下の行政当局と治安警察との軋轢の原因ともなった。⁽⁷⁾ 占領権力は、現場においてかならずしも一貫した統一的な政策を執行しているわけでもなかった。「ドイツ当局のウクライナ問題についての完全な多様性」が、ウクライナ人の困惑の的であった。総督府の東部国境近く、少数民族としてのウクライナ人の村落がある地域にポーランド人が送りこまれ、その結果、旧ポーランド共和国が推進していたポーランド化を、この強制移住が強力に推し進めることになった。⁽⁸⁾

しかし、総督府領内の約七五万人のウクライナ人を結集し、統一させる作業もやっていた。具体的には、たとえばウクライナ人の意味での学校制度やギリシャ正教の建設があった。それにより、大ロシア的・ツァーリズム的志

表2-1 ポーランド住民に対する移住強制行動と移住実績 (1939-44年)

行動の名称	時期	～から	～へ	移住者数
サン川以東へのポーランドユダヤ人の強制退去	1939.9	総督府	ソ連	約20,000
グディニアからの疎開	1939.10-1940	グディニア	ダンツィヒ-西プロイセン	約50,000
「乱暴な」移住	1939-1940	西プロイセン ヴァルテラント	総督府	約40,000
「第1回近距離計画」	1939.12.1-17	ヴァルテラント	総督府	87,833
「中間計画」	1940.2.10-3.15	ヴァルテラント	総督府	40,128
「第2回近距離計画」	1940.3.15-41.1.20	ヴァルテラント	総督府	133,506
第1回西プロイセン計画	1940.5.4-11.15	ダンツィヒ-西プロイセン	総督府	30,758
「ムウァヴァ作戦」	1940.11.9-20	ツイヒェナウ	総督府	10,700
ダンツィヒ移住センター退去	1940.11.15-41.3.15	ダンツィヒ-西プロイセン	総督府	10,504
「ザイブッシュ作戦」	1940.11.23-12.14	東オーバーシュレー ジェン	総督府	17,415
「リトアニア作戦」	1940.12.5-17	ツイヒェナウ	総督府	9,946
「第3回近距離計画」				
移住	1941.1.20-3.15	ヴァルテラント	総督府	19,226
追出し	1941.3.16-42.1.21	ヴァルテラント	ヴァルテラント	111,600
シーラッツ射撃場疎開	1941.4.1-11.1	シーラッツ郡など	ヴァルテラント	23,815
ダンツィヒ-西プロイセン内部移住	1941.4.22-42.12.31	ダンツィヒ-西プロイセン	ダンツィヒ-西プロイセン	19,312
「拡大第3回近距離計画」	1941.1.22-12.31	ヴァルテラント	ヴァルテラント	99,074
総督府諸射撃場疎開	1941-1942	総督府	総督府	171,000
「農作業員作戦」	1942.3.2-6.23	ヴァルテラント	ヴァルテラント	171,947
「Zamosc作戦」	1942.11.28-12.31	総督府ルブリン管区	総督府、ドイツ、 アウシュヴィッツ 収容所	33,832
東オーバーシュレー ジェン移住	1942	東オーバーシュレー ジェン	東オーバーシュレー ジェン、総督府	約63,000
ピアウイストク移住	1942-1943	ピアウイストク	ピアウイストク、 ドイツ	28,465